鷺沼・宮崎エリア

大山街道コース 約5.8km

2.8km 1.1km 1.9km

梶が谷駅 → 宮前平駅 → 鷺沼交番前 → うとう坂下

コース区間距離

東海道の裏街道の歴史を偲(しの)ぶ

大山街道は矢倉沢往還ともよばれ大山登拝後の富士山、富士登拝後の大山詣でにも利用されていた。矢倉沢往還は江戸へ物資を運ぶ役割を果たしており、駿河の茶・綿、伊豆のワサビ・シイタケ・干し魚、秦野からは煙草、厚木からは相模川の鮎などを江戸に運んでいた。

宮前区の大山街道 豆知識

宮前区内の大山街道は、昭和30年代以降に始まった大規模な都市開発のため多くの区間が消滅した。宮崎大塚から庚申坂上、小台坂から鷺沼、有馬の八幡坂にルートが残されている。しかし、道路は拡幅され坂は緩やかに改良されているため、ガイドブック無しには歩くことが難しい。それでも馬絹の三又や有馬は詳細に観察すれば民家が建てられた向きから、在りし日の大山街道を偲(しの)ぶことができる。宮前区は多摩丘陵に位置するため、庚申坂・札野坂・土橋の八幡坂・小台坂・有馬の八幡坂が連続し、いずれも開発前は急傾斜であり、大山街道の難路であった。

矢倉沢往還

矢倉沢往還の大山街道は、30以上ある大山道を代表する道である。起点の虎ノ門から大山まで70数kmの道程であった。渋谷・用賀を経たあと二子渡口・荏田・長津田・下鶴間・厚木などの宿場を通り大山に達していた。途中、多摩川は二子の渡しで、相模川は厚木の渡しで渡っていた。江戸から大山までは通常2泊3日の行程であった。大山には商売い・農作・漁業・商売業績・航海安全・家内安全などを祈願した。盛時には福島県の蒲鉾、新潟県の魚沼、長野県の佐久・松本地方、山梨県、静岡県、伊豆諸島から参詣者が訪れた。

矢倉沢往還は、慶長6(1601)年に徳川家康が整備した東海道の裏往還である。東海道は大名・武士が多く使い表街道的な存在であったのに対し、矢倉沢往還は農民・商人が多く通行する道であり、裏街道的な存在であった。しかし、駿河の茶・綿、伊豆のワサビ・干し魚、秦野の煙草・相模川の鮎などの物資を江戸に供給する重要な役割を果たす生活道路であった。